

第6次NACCSの開発について

1. 次期（第6次）NACCSの開発

平成22年2月に稼働を開始した現行NACCS（Sea-NACCS部分は平成20年10月に稼働）は、システムライフを8年と設定していることから、平成29年10月を目途として更改を実施することとしています。次期NACCSにつきましては、以下を開発コンセプトとして、今後、官民の利用者の皆様とともに、具体的な方向性、基本仕様の検討等といった開発プロセスを進めていく必要があります（別紙1参照）。

【次期NACCS開発コンセプト】

- 官民共同利用の基幹システムとして、安定性・信頼性の高いシステムの実現
- 公共的インフラとして、効率性・経済性の高いシステムの実現
- 総合的物流情報プラットフォームとしての更なる機能の充実

2. 専門部会の設置

次期NACCSの開発プロセスを円滑に進めていくためには、来年度中に基本仕様等の検討・確定を行うことが必要となります。基本仕様等の検討を進めるにあたっては、官民利用者の皆様からの意見等を十分に反映させる必要があることから、以下のとおり情報処理運営協議会の下部組織として専門部会を設置したいと考えています。

（1）目的

次期(第6次)NACCSの業務仕様等に関して、官民利用者により検討を行うことを目的とする。

（2）組織（別紙2参照）

- ① 情報処理運営協議会の下部組織として、「航空更改専門部会」及び「海上更改専門部会」を設置する。
- ② 「航空更改専門部会」には、「輸出入通関WG」及び「航空物流等WG」を設置する。
- ③ 「海上更改専門部会」には、「輸出入通関WG」及び「海上物流等WG」を設置する。
- ④ 事務局はNACCSセンター企画部とする。

（3）開催スケジュール（予定）

平成24年度における専門部会等の開催スケジュールは別紙2のとおりとする。

（4）対外公表

専門部会の活動状況については、NACCSセンターホームページ、NACCS掲示板等を利用して適宜公開する。

NACCSの更改について

平成24年3月12日



NACCS発展の歩み

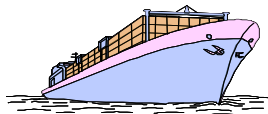
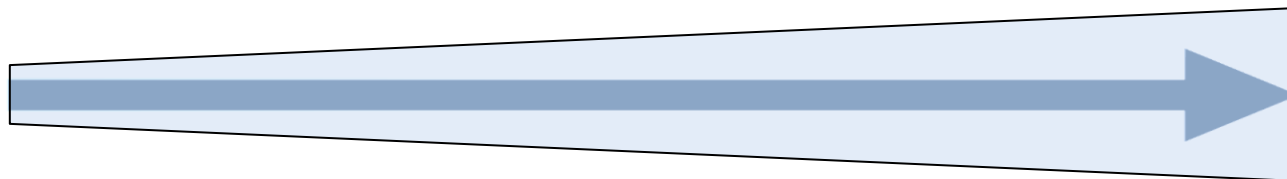
Air-NACCS

1978年(昭和53年)
Air-NACCS(第1次)
航空貨物の輸入システム
の稼働開始(貨物情報を含む
総合物流情報システム化)
(利用者)
・航空会社 ・通関業
・保税蔵置場 ・銀行
・混載業 ・税関
・航空貨物代理店
・機用品業

1985年(昭和60年)
Air-NACCS(第2次)
航空貨物の輸出入システム
の稼働開始

1993年(平成5年)
Air-NACCS(第3次)
システムのアップグ
レード

2001年(平成13年)
Air-NACCS(第4次)
システムのアップグ
レード



Sea-NACCS

1991年(平成3年)
Sea-NACCS(第1次)
海上貨物の輸出入通関シ
ステムの稼働開始(通関業務
等のみ)
(利用者)
・通関業
・税関
・銀行

1999年(平成11年)
Sea-NACCS(第2次)
海上貨物の輸出入シ
ステムの稼働開始(貨物情報を含む
総合物流情報システム化)
(利用者)
新たに次の業種が参加
・船会社
・船舶代理店
・コンテナヤード
・保税蔵置場

現行NACCS(第5次)

2010年(平成22年)2月
Air-NACCS(第5次)システムのアップ
グレード

経済産業省のJETRASをNACCSのサブシ
ステム化

(利用者)
新たに次の業種が参加
・輸出入者
・汎用業務利用者

・総合的物流情報プラットフォームの構築
を目指して開発
(府省共通ポータル稼働・関連省庁
システムの統合等)
・Air/Seaのハードウェア統合
・通関業務、収納業務等のAir/Sea
共通化

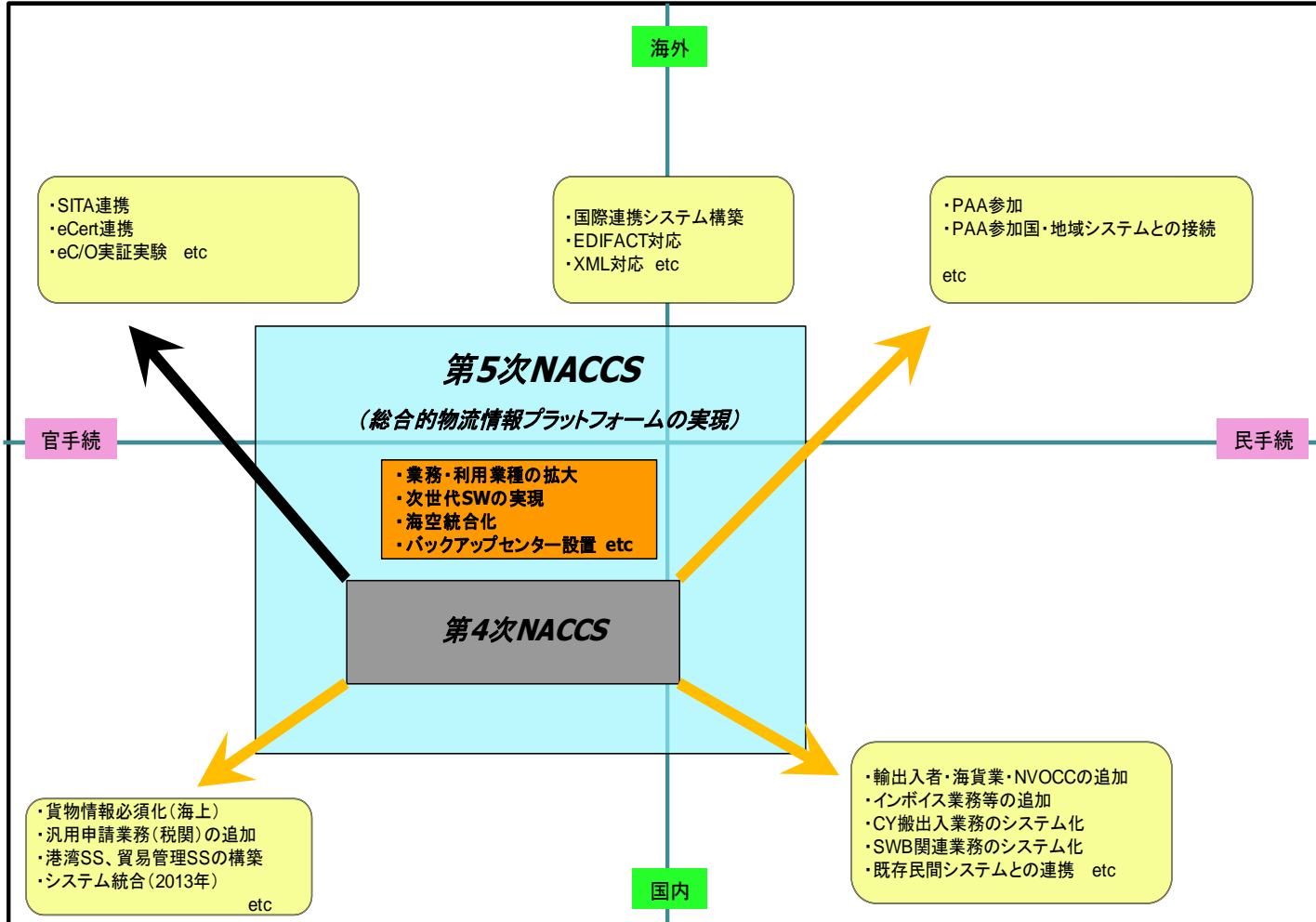
2008年(平成20年)10月
Sea-NACCS(第3次)システムのアップ
グレード

国土交通省の港湾EDIシステムをNACCS
のサブシステム化

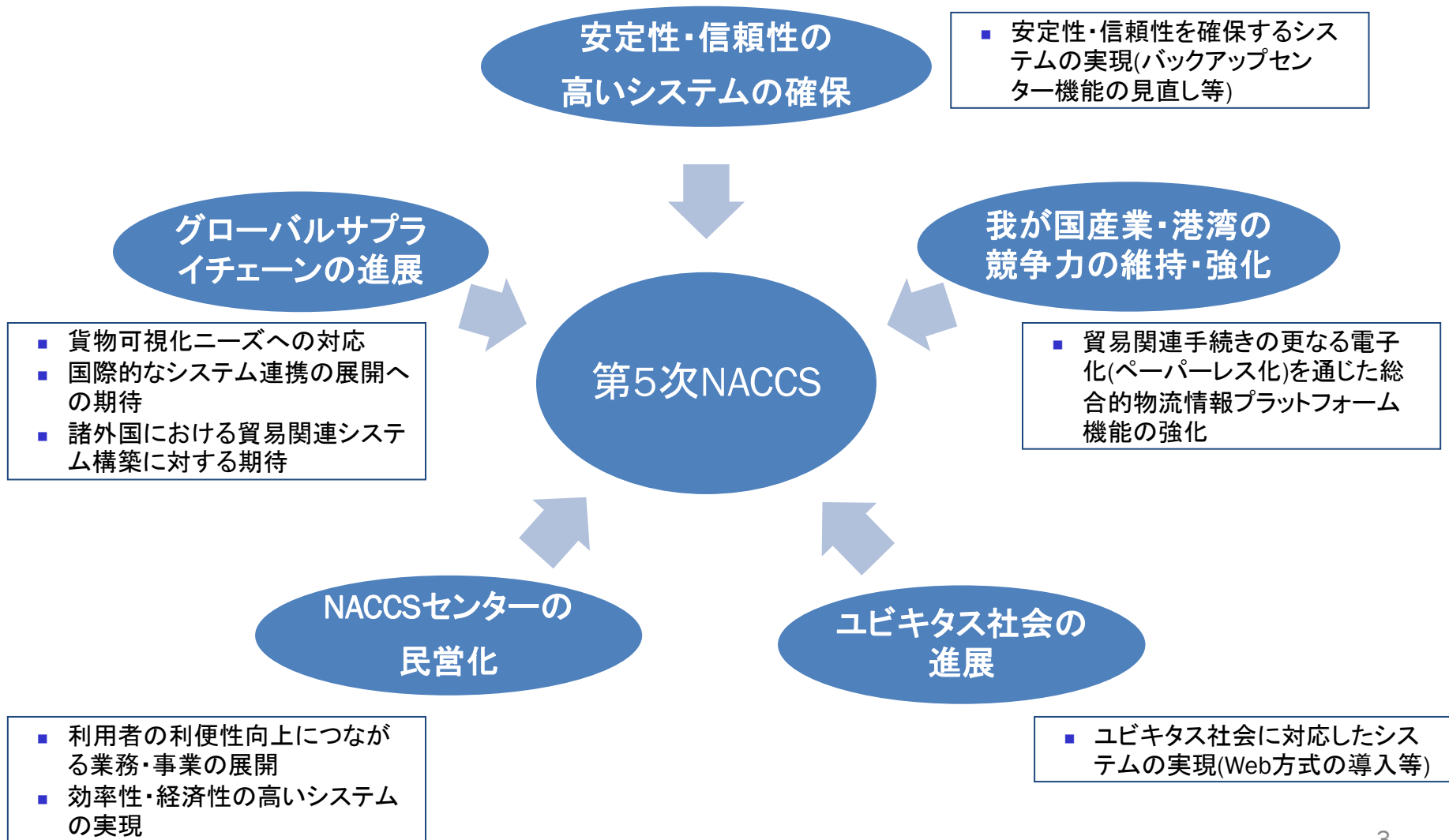
(利用者)
新たに次の業種が参加
・海貨業
・NVOCC
・輸出入者
・汎用業務利用者

現行(第5次)のNACCSの位置づけ

現行(第5次)NACCSにより、NACCSは我が国における国際貿易・物流分野の総合的物流情報プラットフォームをある程度実現しました。



NACCSを取り巻く環境



第6次NACCS－考えられるコンセプト

官民共同利用の基幹システム
として、安定性・信頼性の高い
システムの実現



第6次NACCS



総合的物流情報プラット
フォームとしての更なる機能
の充実



公共的インフラとして、効率性・
経済性の高いシステムの実現

第6次NACCS－コンセプト

(1) 官民共同利用の基幹システムとして、安定性・信頼性の高いシステムの実現

NACCSが国際物流において必要不可欠な官民共同利用の基幹システムであることを踏まえ、第6次NACCSにおいても、安定性・信頼性の高いシステムの実現を図ります。

- システムの安定性、信頼性を確保するシステム更改（更改のあり方、業務機能等）の実現
- H22.12.10に発生したシステム障害を踏まえ、システムの更なる安定性を確保する仕組み（システム構成、バックアップセンターの機能見直し）の検討

(2) 公共的インフラとして、効率性・経済性の高いシステムの実現

NACCSは官民共同システムとしての公共的インフラであることを踏まえ、第6次NACCSにおいても、効率性・経済性の高いシステムの実現を図ります。

- システムの効率性、経済性を確保するシステム構成、業務機能の見直し
- 関係省庁システムとの統合形態の見直し
- システム開発コストの低減化の実現

(3) 総合的物流情報プラットフォームとしての更なる機能の充実

グローバルサプライチェーンの進展、我が国産業・港湾の競争力の維持・強化、ユビキタス社会の進展を踏まえ、第6次NACCSにおいては、現行第5次NACCSがある程度実現している総合的物流情報プラットフォームシステムとしての機能の充実を図ります。

- BtoB、BtoGのポータルとして、国際的なシステム連携機能や国内の民間システムとの連携強化の検討
- 関係業界、利用者の全員参加を実現するシステムの検討
- 貿易関連手続きの更なる電子化（ペーパーレス化）の進展に対応する業務仕様、新規事業の検討
- 利用者の更なる利便性の向上を目指した業務仕様、新規事業の検討
- 利用者の利便性向上や新規事業に対応できるネットワーク、利用者インターフェイスの検討

第6次NACCSの方向性

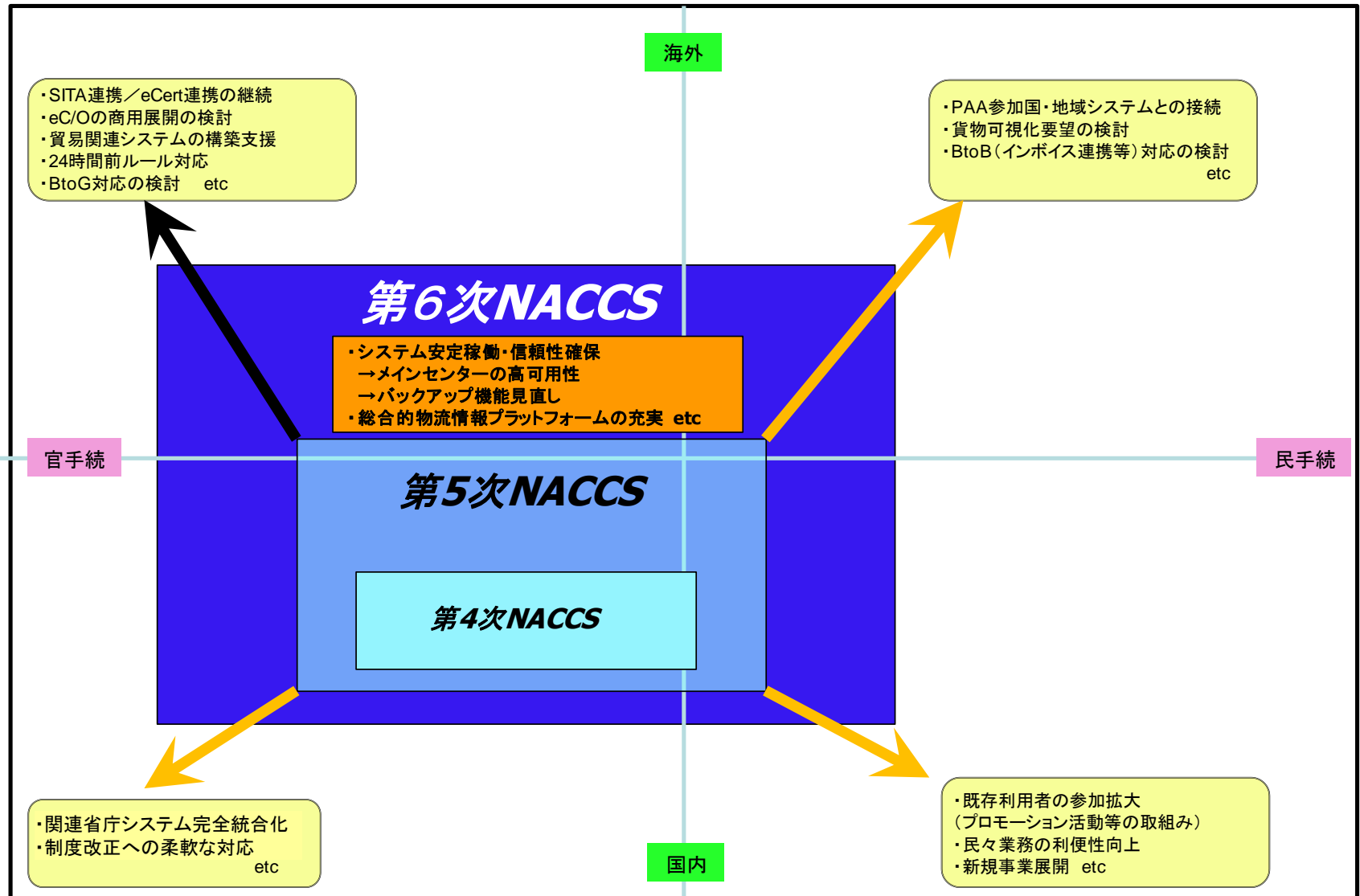
1. 第6次NACCS更改のあり方

- 海上／航空統合システムとして、一括更改を実施します（更改は平成29年10月を予定）。
- システムの安定稼働を図る観点から、業務機能毎に段階的なリリースを実施します。
- 官民総意に基づくシステム更改を図る観点から、仕様検討を重視した更改スケジュールを確保します。
- システムへの信頼性を確保する観点から、稼働率99.99%（メインセンター）を維持します。
- 更なる安定性を確保する観点から、バックアップセンターの機能の見直しを検討します。
- 競争入札の採用による調達手続の透明性確保、システム開発コストの低減化を目指します。

2. 第6次NACCSにおける各種機能について

- 業務仕様及びEDI仕様については、現行仕様の成熟化、仕様変更に伴う利用者システムへの影響等を考慮し、現行仕様の踏襲（継続）を基本としつつ、関係業界・利用者の全員参加の確保、利用者の利便性向上等の視点から、業務仕様・機能の見直しを行います。
- 新規業務・機能については、貿易関連手続きのペーパーレス化に向けた動向、利用者のニーズを踏まえ、事業性を評価しつつ検討を進めることとします。
- 新規事業への対応、利用者の利便性向上の視点から、民間利用者ネットワークの大容量化を検討します。
- 利用者の利便性向上の視点から、Web対象業務の導入等利用者インターフェースの見直しを検討します。
- 官民双方のニーズを踏まえ、国際的なシステム連携機能を活用した業務や民間システムとの連携の強化を検討します。
- 効率的なシステムを実現する観点から、ダイレクト・インターフェース（X.25）、NACCS専用口座方式の廃止を検討します。

第6次NACCSの方向性



第6次NACCS更改のあり方

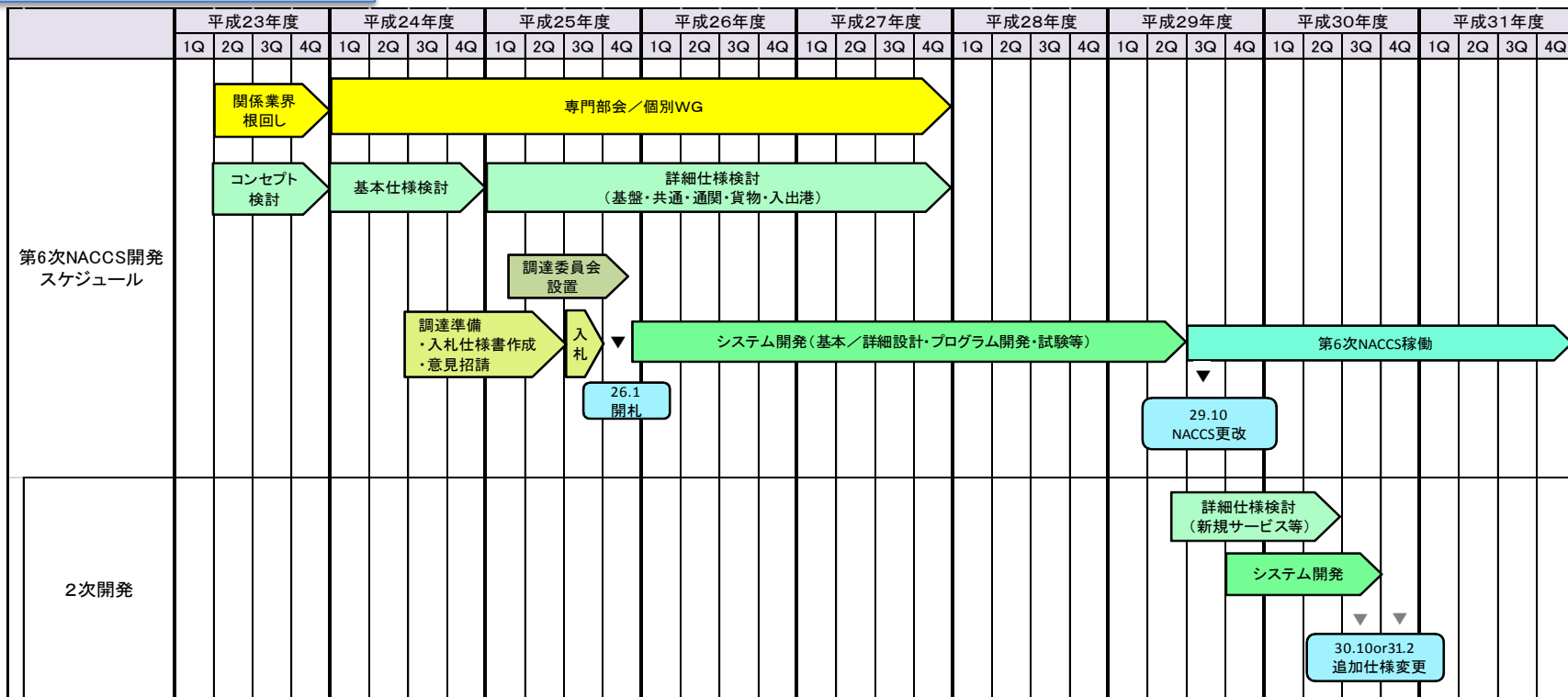
1 更改時期

次期システムの更改時期は、NACCSのハードウェアの保守期限、関連省庁システム統合に係る契約期間、港湾サブシステムの更改タイミング等の諸要件を考慮し、平成29年10月とします。

2 ライフサイクル

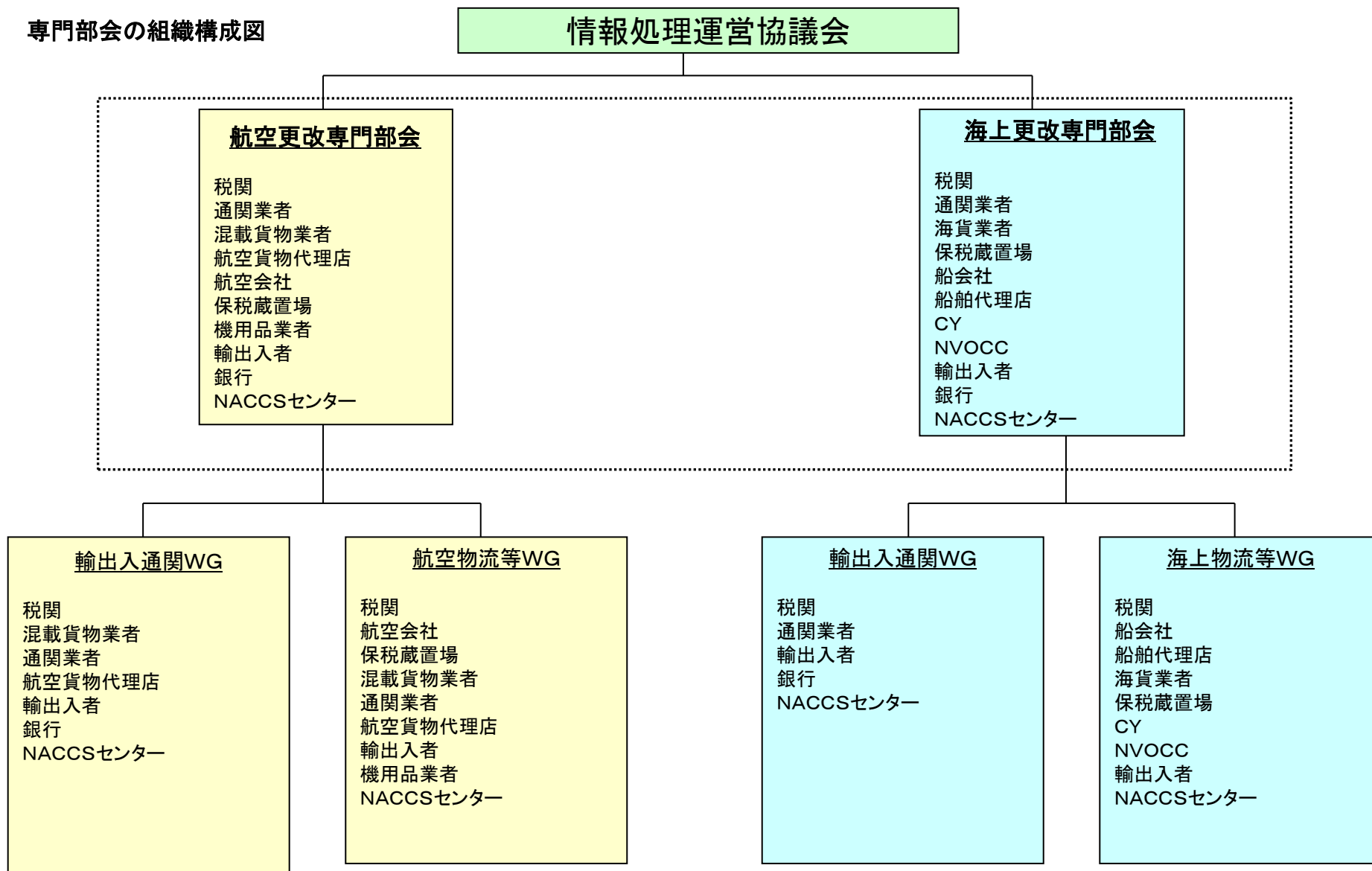
次期システムのライフサイクルは、利用者システムへの影響等を考慮し、これまでと同様に8年間とします。
 なお、中間年（4年目）での見直しも検討します。

3 更改スケジュール



第6次NACCS更改に向けた専門部会の構成(案)

専門部会の組織構成図



第6次NACCS更改に向けた専門部会等の開催予定について

専門部会			W G		
24.5～6月	第1回航空更改専門部会 第1回海上更改専門部会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理運営協議会における議事報告 ・部会長選出 ・専門部会の運営、スケジュール ・専門部会における検討事項 	24.5～6月	第1回航空合同WG 第1回海上合同WG	<ul style="list-style-type: none"> ・WGの運営、スケジュール ・WGにおける検討事項
			24.7月	第2回航空合同WG 第2回海上合同WG	<ul style="list-style-type: none"> ・基本業務フローの検討 ・システム構成、EDI仕様の検討
			24.9月	第1回航空輸出入通関WG 第1回航空物流等WG 第1回海上輸出入通関WG 第1回海上物流等WG	<ul style="list-style-type: none"> ・個別業務等の検討
			24.10月	第2回航空輸出入通関WG 第2回航空物流等WG 第2回海上輸出入通関WG 第2回海上物流等WG	<ul style="list-style-type: none"> ・個別業務等の検討
			24.11月	第3回航空輸出入通関WG 第3回航空物流等WG 第3回海上輸出入通関WG 第3回海上物流等WG	<ul style="list-style-type: none"> ・個別業務等の検討
			24.12月	第3回航空合同WG 第3回海上合同WG	<ul style="list-style-type: none"> ・業務基本仕様の検討 ・EDI基本仕様の検討
25.1～2月	第2回航空更改専門部会 第2回海上更改専門部会	<ul style="list-style-type: none"> ・WGにおける検討結果の報告 ・基本仕様(業務・EDI)の検討 ・今後のスケジュール 			

注1: 合同WGとは輸出入通関WGと航空or海上物流WGとの合同WGをいいます。

注2: 平成24年度においては専門部会は2回を想定しているが、中間報告等の必要があれば適当なタイミングで開催する可能性もあります。